



# DAIDO CAMPUS

No.82 2014.7



第49回宴祭 後夜祭  
瞬間



学生の  
**勇姿!**

# 第49回大学祭(宴祭)

瞬間、～この一瞬を刻め～



5月24日(土)、25日(日)の2日間、大学祭が開催されました。今年のテーマは、“瞬間”～この一瞬を刻め～。来ていただいたお客様が見たことや、体験したことの一つ一つが心に刻まれ楽しい思い出となり帰っていただきたいという思いが込められています。

様々な大学からのブースの協力、Silent Sirenによるプロコンサート、そして大学祭実行委員会による企画の数々。一生忘れることのない特別な2日間が多くの方々胸に刻まれたことでしょう。

となり盛り上がりました。小雨模様でしたが、それに負けなくらい人の頬にも熱い雨が降っていました。

(写真・文章提供:アルバム委員会)

後夜祭のダンスステージでは、会場が一つ



## ミス大同コンテスト

大学創立50周年を迎え、今回初めて後夜祭でミス大同コンテストが開催されました!おおよそ2,000人の来場者に投票してもらい、かおりデザイン専攻3年野中悠衣さんが見事グランプリに選ばれました!



### グランプリ



かおりデザイン専攻  
3年  
野中悠衣さん

第1回ミス大同コンテストという、50年の歴史に刻まれる華やかな大舞台に立つことを決意し、不安の中で自分を試すチャンスに気持ちが高ぶるのを感じました。当日は変更やトラブルが多く、戸惑いを感じましたが、家族や友人、先生方から暖かい言葉を頂き落ち着いて舞台上上がることができました。コンテストがこの先の良き伝統として受け継がれ、さらに大きなものになっていくこと、また女子学生が大同大学に増えていくことを願っています。

### 準グランプリ



かおりデザイン専攻  
3年  
城田光穂さん

今年初めて開催されたミス大同コンテストに参加することができ、とても嬉しく思います。初めてのことで参加する私たちはもちろん、大学祭実行委員の方々も大変なことが多くあったと思います。ですが、協力しあいながらやり遂げ、貴重な経験ができたことがとてもいい思い出になりました。これからミス大同コンテストが続いていき、たくさんの方に大同大学を知ってもらえる機会になればいいと思います。

### 司会特別賞



かおりデザイン専攻  
3年  
山村実希さん

コンテストに出場することが決まったときは不安や緊張でおしつぶされそうになりましたが、実際に舞台上に立ってみると見てくれている人たちのテンションが高いため、アイドルのような気分を味わうことができて楽しかったです。出場したことで、今まで関わりのなかった人達との交流を持つ機会ができた、自分自身も成長できたと感じています。なので少しでも興味を持った方はぜひ来年のミス大同コンテストに出場してほしいです。

### 後夜祭担当特別賞



かおりデザイン専攻  
3年  
近藤 栞さん

記念すべき第1回ミス大同コンテストに出場することができて光栄に思っています。当日の控室ではみんなでワイワイと写真撮影をしたり、談笑したりと楽しい時間を過ごせました。最近ではすれ違った時に声をかけてくれる方もいて人脈も増え、楽しい大学生活を送れています。ミスコン開催にあたって大学祭実行委員の皆さん、棚村先生、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。是非、これからもミスコンが続いて欲しいと願っています。



## 第49回 第20期 同窓会総会を開催



5月24日(土)、第49回第20期同窓会総会を本学ゴビーホールで開催しました。総会は毎年、大学祭時に開催されています。

総会には、大学側より理事長・学長、常務理事を始めとする教職員、全国各地より多くの卒業生にご出席いただきました。総会では

来年設立50周年を迎えるにあたり、今後の同窓会活動について議論されました。また、卒業生(89M)で落語家(真打)の三遊亭楽市さんが落語を披露し、立ち見が出るほどの大盛況でした。また懇親会も開催され、約150名の参加がありました。今年はサッカー



部、ソフトボール同好会、吹奏楽団、かおりデザイン専攻の在学生からも参加し、吹奏楽団の演奏も行われ、卒業生と在学生との良い交流の場となったようです。



# 学生の 勇姿!

クラブ委員会主催

## クラブ対抗ボウリング大会

6月7日(土)、クラブ委員会主催、クラブ対抗ボウリング大会が行われました。始球式では、杉本幸雄教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻/学生部長)の見事なストライクによってスタートからおおいに盛り上がりました。大会中は、熱気に満ち溢れる中、どこか和

気満々とした雰囲気もあり、各クラブで絆をより深めることが出来たようです。表彰式では、団体・個人で、ランダムな順位に景品が用意されており、ハイスコアを取れなかった人も、最後まで楽しんでいました。

(写真・文章提供:アルバム委員会)



命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会

## 「環境首都あいち」フォーラムに参加、発表しました

3月18日(火)、愛知県産業労働センターで愛知県主催の「環境首都あいち」フォーラムが開催され、およそ170人の参加がありました。

第1部は「第4次愛知県環境基本計画」について、愛知県環境審議会総合政策部会での審議の経緯や中間とりまとめのポイントを部会長(南山大学副学長)が報告されました。

第2部はパネルディスカッション。持続可能な社会を担う「人づくり」～「環境首都あいち」の実現に向けて～をテーマにトヨタ自動車株式会社 プラント・エンジニアリング部長、名古屋大学大学院工学研究科化学・生物工学専攻 准教授、特定非営利活動法人のりんの学舎自然学校 理事、愛知県環境部 技監の4人がパネラー、部会長がコーディネーターを務め、環境活動について事例を挙げ、ディスカッションされました。

その際、これからの環境活動の中核を今後担うであろう若者の代表として、新里真弥さん(工学部 建築学科 土木・環境専攻3年)と額野哲史さん(工学部 電気電子工学科2年)が壇

上へ。彼らが学生実行委員会のメンバーとして活動している、愛知県の生物多様性を向上させる「命をつなぐPROJECT」について報告しました。これまで企業ごとに取り組まれていた企業緑地の緑化活動を企業だけではなく周辺住民、行政など、互いの利害を超えて一致団結し、生物多様性向上のために活動している3つの事例(『1.目指せ!ビトーブネットワーク「つなぎの水辺作戦」』、『2.目指せ!アニマルパスウェイ「イノチの抜け道作戦」』、『3.動物たちの棲み家をつくろう!「いきものアパート作戦」』)を紹介。これらの活動内容、またこの活動を通じて、環境問題や自然の知識を深め、地元を愛し、この場所をもつ

と良くしていこうという想いを発信するツール『環境系フリーペーパー「エコレコあいち」(年間4回/毎号2万部発行)』を来場者に配付しました。

ディスカッションの終盤には額野さんが手を上げて質問、「学生は環境活動にどう関わっていくべきか」。この問題提起にコーディネーター、パネリストまた会場の参加者も巻き込んで活発な意見交換が行われ、フォーラムは盛況のうちに終了しました。

終了後も新里さんたちのもとにパネリストたちが集まり、意見交換が続いていました。

このフォーラムが本当に有意義な時間となったことは、彼らの顔つきに表れていました。



▲事例発表する新里さん(左)



▲フォーラム終了後に意見交換する新里さん

## 命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会

# 環境省より「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞!



本学の学生が多く実行委員として活躍している『命をつなぐPROJECT学生実行委員会』が、環境省主催の「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞しました。4月23日(水)に行われた表彰式には、学生実行委員会の代表を務める新里真弥さん(工学部建築学科 土木・環境専攻3年)が出席し、北川知克環境副大臣から授与されました。

「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表

彰は、自然環境の保全に関し、顕著な功績があった者(または団体)を表彰するもので、平成11年度から毎年行われています。平成26年度は全国で37件(個人16件・団体21件)が受賞者として選ばれました。『命をつなぐPROJECT学生実行委員会』は、表彰4部門の一つ「保全活動」部門に選ばれています。

『命をつなぐPROJECT学生実行委員会』は、知多半島臨海部の企業緑地において生

物多様性の向上・次世代の担い手育成を推進する命をつなぐPROJECTの活動主体の一つです。学生実行委員会は同地での生態系ネットワーク形成に取り組むとともに、フリーペーパー「エコレコあいち」を作成し情報を発信するなど、積極的に活動を行っています。これらの活動が自然環境の保全および普及啓発活動に尽力しているという評価を受け、今回の受賞に至りました。

## 命をつなぐ PROJECT

# 環境省よりグッドライフアワード 審査委員特別賞を受賞!

命をつなぐPROJECTが、環境省(協力: いいね! JAPAN)主催の平成26年第1回グッドライフアワードで、応募総数147件の中から審査委員特別賞「環境と地域づくり」特別賞を受賞しました。

グッドライフアワードは、「環境や社会に良い暮らし」やこれを支える取組(ボランティア活動、サービス・技術など)に顕著な努力を払い成果を挙げたと認められた団体・個人に対して、環境省から授与される賞です。

命をつなぐPROJECTは、愛知県知多半島臨海部(東海市・知多市)に立地する企業

群が持つ緑地を、地域の公共的な財産として捉え、哺乳類や鳥類等の生き物の棲み家となる緑地へと転換させることで、地域の生態系ネットワークを形成しようという取り組み。学生・NPO・企業・専門家・行政などさまざまな主体で構成し、互いに連携して生態系ネットワークの形成を推進するなかで、地域やその環境を大切に想える人材を育てる「次世代の担い手育成」にも取り組んでいます。

生態系ネットワークの形成・次世代の担い手育成の取り組みが高く評価され、今回の受賞となりました。



## バレーボール部

# 入れ替え戦に勝利! 1部リーグ昇格!

5月25日(日)、AGUスポーツセンターで行われた東海学生バレーボール春季リーグ入れ替え戦において、本学バレーボール部が勝利し、1部リーグ昇格を決めました。

バレーボール部は春季リーグ2部を全勝優勝で勝ち上がり、入れ替え戦では静岡産業大

学藤枝学舎と対戦。激戦を制しての1部昇格となりました。バレーボール部の1部リーグでの活躍に期待しましょう!



写真提供:アルバム委員会



## 学生の 勇姿!

### 男子ハンドボール部/女子ハンドボール部 東海学生リーグ1部 準優勝!

本学のハンドボール部が、男女ともに、東海学生春季リーグ1部において準優勝を果たしました。

男子は7勝1敗1分、女子は6勝1敗でした。

また、優秀選手として、男子からは中嶋洗平さんと新ヶ江将太さんが、女子からは濱恵利香さんと伊藤未来さん（全員、情報学部 情報デザイン学科 スポーツ情報専攻4年）が選ば

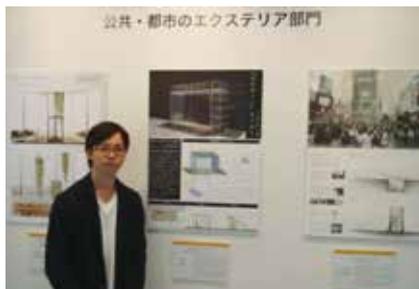
れました。

男女ともに、西日本インカレへの出場が決定しています。ハンドボール部の今後の活躍に期待です!



辻数馬さん(加藤和雄研究室/工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻)

### 第3回 E&G DESIGN 学生デザイン大賞2014で入賞しました



「第3回 E&G DESIGN 学生デザイン大賞2014」で、加藤研究室の辻数馬さん（4年）

が公共・都市空間のエクステリア部門で佳作に入賞しました。

このコンペでは、「花と緑のある屋外環境 ～幸せ感あるエクステリア～」をテーマに、住まい方や利用の仕方、身体面・心理面、省エネ・環境性等の要素と空間の関わり方を考えた空間デザインが募集されました。

辻さんの作品『「植物×水面」ウツロイ バス停/癒しの場』は、バス停を植物と水面で構成し、癒しの空間を創出しています。



村井亮介さん(宇野享研究室/工学部 建築学科 建築専攻)

### 卒業設計作品が CIP 学生賞に 入賞しました

3月31日(月)、宇野研究室所属の村井亮介さん(卒業生:A10)の卒業設計作品「美濃史博物館—うだつと現代建築の融合」が、CIP学生賞に入賞しました。

CIP学生賞は、中部インテリアプランナー協会(CIP)が主催で中部地域の卒業設計作品を対象にしたものです。



遠藤美佳さん(工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻)

### 全国 114 大学の建築系学科卒業設計優秀作品に選ばれました

全国 114 大学の建築系学科から 145 点の卒業設計作品が優秀作品として掲載されている『近代建築 6月号別冊 卒業制作 2014』に、本学の卒業生である遠藤美佳さん(卒業生:A10)の卒業設計「音の森」が卒業設計優秀作品として選出され、掲載されました。

「音の森」は、「アコースティック楽器の個人練習用貸しスタジオ」と「楽器ミュージアム」を、オーケストラの楽器配置をモデルに併設したもので、それぞれの利用者との新たな交流が生まれる空間。音楽と空間との関係を、さまざまなおモチーフを探し丹念に考え表現した部分

が評価されました。

指導教員の武藤隆教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)は遠藤さんの作品に「自身が大学の吹奏楽団に所属し、4年間図面を引きつつ、楽器を弾き続けた彼女ならではの視点」とコメントしています。

## 不破勝彦研究室(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻) 第155回教育工学研究会で学生4人が発表しました

3月22日(土)、計測自動制御学会(SICE)中部支部主催「第155回教育工学研究会」が開催され、不破研究室の学生4人が発表しました。

今回の研究会のテーマは「教育工学(新しい教育システム、マルチメディアと教育)」。不破研究室(2013年度卒業生)の糸瀬憲さん、安部僚馬さん、宇野裕貴さん、田中智也さん

が「LEGO Mindstorms NXTを用いた二輪型倒立ロボットの障害物回避制御」と題して発表しました。

## 情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 新入生歓迎会を開催しました

5月15日(木)、情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻で新入生歓迎会が開催されました。

この行事は昨年から始まったもので、4年生が中心となり2～4年生の先輩が新入生である1年生に大学での学びや生活の仕方を先輩目線から伝授し、交流を深める行事です。

昨年はお昼時にお弁当を食べながら開催されましたが、今年は時間をたっぷり取るため授業を終えた5時限目に行われました。

歓迎会では、まずはじめに4年間の実習系専門科目の流れや、それぞれの科目の特徴などを先輩がパワーポイントのスライドを使って10分程度紹介しました。

その後、くじ引きで賞品が当たるお楽しみ



コーナー、いろいろな質問や話ができるフリーディスカッションが行われました。多くの先輩、先生と話ができるように工夫されており、お茶やジュース、スナック菓子などを食べながら和気あいあいとした雰囲気では進みました。学年を超えて集まって話をする機会があまりな



いこともあり、1時間強の予定時間があっという間に過ぎてしまったようです。

来年もまた後輩たちに引き継がれ、プロダクトデザイン専攻の恒例行事として定着していくことでしょう。

## 卒業研究テーマ発表会が開催されました

5月20日(火)、情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻で卒業研究テーマ発表会が開催されました。4月の新学期が開始されてから、各教員の下に分かれた4年生は、卒業研究のテーマの探索をし、予備調査、予備検討を進めてきました。そして、今回実施されたテーマ発表会が卒業研究のキックオフとして位置づけられており、テーマを決定し実質的な活動が開始されるというものです。

例年、学生たちは思い思いに自分たちなりのテーマを決めて卒業研究を進めていますが、今年も結果が楽しみなテーマが揃いました。

昨年、有松鳴海絞りの加工器具の制作を工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻の卒業研究と連携して実施されていましたが、今年にはさらにその結果を前進させ、イベントなどの場でのアピール度を高める意味でキャラクター性を持たせることを目指したテーマや、戸外で携帯電話を受ける際に周囲の音に邪魔されないようにするブースデザインのテーマな



ど期待できそうなテーマが目白押しでした。

発表会が実施された場所は、「CGプレゼンテーション室」。つい先ごろ改修され、従来は展示室として使用されていた教室を最先端のCADからCGレンダリングをリアルタイムで作成し検討できる機器システムを設備した教室へと生まれ変わった場所です。この教室ではCADで作成したデータから本物と見紛うばかりの美しいCGを制作することができます。

CGは、最近の映画で多用されている技術であり、トランスフォーマーなどの映画を見た



ことのある人であればなるほどあれかと思われる技術です。この教室にある機器システムを活用すると、アニメーションによらず、検討中のデザインが美しいCGとしてリアルタイムで色々な方向から変更して見ることができます。今回のテーマ発表会では、そこまでの機能を使ったプレゼンテーションにはなっていませんでしたが、中間発表等ではこれらの機器システムを使ってプレゼンテーションが行われることでしょう。

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

## 展示会「プロダクトデザインの世界へのいざない」を開催しました

情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻が、本学大学創立50周年記念展示室で、展示会「プロダクトデザインの世界へのいざない」を開催しました。この展示会は、プロダクトデザイン専攻での学びの流れを実際の学生作品を通して理解してもらい、「プロダクトデザインの世界」の楽しさを少しでも感じてもらうという趣旨のもと開催され、過去の卒業生の卒業作品などが展示されました。



情報学部 総合情報学科 経営情報専攻

## 春のオープンキャンパスでカフェを運営しました！

6月1日(日)、春のオープンキャンパスが開催され、情報学部 総合情報学科 経営情報専攻の学生がカフェを開きました。お店の名前は「One heart」。学内にてカフェ運営を行い、マネジメントを学ぶことで、経営学の知識、技能を体現することを目的としています。

学生たちは、本学学生約750人を対象にアンケート調査を行い、ターゲット、お店の場所、オープン時間、メニューなどを考え、衛生管理者の資格も取得。本格的な運営の前にオープン

キャンパスで来学者向けにコーヒー・紅茶を無料でサービスしました。



写真提供:アルバム委員会

杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

## 大学プロモーションビデオを制作・完成！

杉本幸雄研究室と Film 研究会のメンバーが制作を進めていた大学プロモーションビデオが完成しました。4月19日(土)、20日(日)、24日

(木)に学内で撮影が行われ、撮影にはエキストラ募集をして集まった学生らも出演。撮影後編集作業を進め、完成しました。このプロモーションビ

デオは、大学ホームページ内、「一目でわかる大同大学 DAIDO GALLERY」ページにてご覧いただけます。



澤岡昭学長

## 名古屋市教育委員会主催の生涯学習講座で講演しました

5月22日(木)、イーブルなごや(名古屋市男女平等参画推進センター、名古屋市女性会館)にて「研究最前線!大学の知を学ぶ」のシリーズ講座の一環として澤岡昭学長が講演しました。澤岡学長は「国際宇宙ステーションと日本人宇宙飛行士」と題して講演し、国際宇宙ステーションの歴史や仕組み、宇宙飛行士として活躍された向井千秋さんや毛利衛さん、若田光一さんのお話、宇宙での生活についてユーモアを交えながら話され、会場に集まったおよそ70人の参加者は、聞き入っていました。



## 西堀賢司特任教員(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻) 中日新聞で絞り加工器具が 紹介されました

5月28日(水)、中日新聞市民版に西堀賢司特任教員が開発した絞り加工器具が紹介されました。

西堀特任教員は、伝統工芸である有松鳴海絞を手掛けている近清商店から、誰でも簡単に絞り加工ができる器具を開発できないかとの依頼を受け、高さ26cmの小型のミシンのような形で、金属とアクリルを使った加工器具を開発しました。上下に可動する部分に針

のような棒がついており、台の上に布を載せ、針を下ろすと台の下に仕込まれた直径6mmの小さな樹脂製の輪に布が押し込まれ、布に輪がついたまま染めることで、輪の部分に染料が入り込まず模様ができあがる仕組みになっています。くくり職人の減少が進んでいる中、今回の機械化によって有松鳴海絞の文化伝承が期待されます。



▲中日新聞(5月28日)

堀尾吉巳教授(工学部 電気電子工学科)

## 第57回 表面科学基礎講座で講師を担当しました

6月4日(水)、5日(木)に大阪大学 コンベンションセンターで「第57回 表面科学基礎講座」が開催され、堀尾吉巳教授が講師を担当しました。

この講座は表面・界面分析の初心者・若手研究者・技術者を対象として、表面・界面分析の基礎と応用を入門的かつ具体例を豊富に挙げて解説することを目的として、年2回

開催されています。

堀尾教授は2日目の講義「表面回折手法(RHEED/LEED)」を担当しました。

加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

## 「MESH 環境デザインセミナー」に コメンテーターとして参加しました

4月22日(火)、名古屋工業大学にて「第90回 MESH 環境デザインセミナー」が開催され、加藤和雄教授がコメンテーターとして参加しました。

MESH 環境デザインセミナーは、インテリア

ア・建築・環境・プロダクトなどを学ぶ空間デザイン系の学生と若いデザイナーを対象として、年に数回開催。毎回日本を代表する空間デザイナーが講演しています。

今回のセミナーでは建築家の南泰裕氏を

お招きして、「環境を編み込む建築」と題して講演が行われました。また講演後は南泰裕氏と建築家の村上心氏との対談が行われ、加藤教授がコメンテーターを務めました。

## 朝倉宏一教授(情報学部 情報システム学科 情報ネットワーク専攻) 研究が『Science Daily』で紹介されました

4月16日(水)、さまざまな分野の科学ニュースを紹介しているWebサイト「Science Daily」に朝倉宏一教授の論文「Construction of navigational maps for evacuees in disaster areas based on ant colony systems」がfeatured researchとして紹介さ

れました。

朝倉教授はアドホック・ネットワーク技術を用いた災害地情報通信システムの開発に取り組んでいます。

今回掲載された研究は、災害時における最適な避難経路を導くシステムを構築する試

み。蟻が巣から食料への最短距離を導き出す仕組みに基づき、スマートフォンのGPS等から得られる情報を集約して、安全な避難経路を構築することが特徴です。

## 鷺見哲也准教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻) 株式会社エステム主催環境フォーラムで講演しました

6月5日(木)、株式会社エステムが主催する第24回環境フォーラムで、鷺見哲也准教授が講演しました。第24回は豪雨災害がテ

マ。鷺見准教授は「私たちは水災害とどのように向き合うか」をテーマに、近年急増するゲリラ豪雨や高潮の災害への理解と備えについて

講演しました。

## 渡部裕子講師(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 「信濃追分文化磁場 油や」で招聘作家として展示を行いました

4月26日(土)～6月2日(月)、アートプロジェクト沙庭が主催する「信濃追分文化磁場 油や」のオープニング企画招聘作家として、渡部裕子講師が展示を行いました。今回の展示は「信濃追分文化磁場 油や」の中のギャラリースペース「蝙蝠」で行われ、立体書作品3点がパーマナント作品(永久展示)となりました。

「油屋」は中山道・追分宿で脇本陣をつとめた由緒ある旅籠で、文士が執筆に利用した宿と

して多くの作品の舞台となりました。現在は本やアート・クラフトなどの長野の文化的活動の拠点としても活用されています。

渡部講師は書家として、国内外で個展を開催するなど活発に活動されています。



## 横井健二教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻) 愛知県立南陽高等学校で社会人講師授業を担当しました



5月1日(木)、愛知県立南陽高等学校で開かれた社会人講師授業の講師を横井健二教授が務めました。

この授業は、南陽高等学校の2年生全員(236人)が取り組んでいる意匠権に関する授業の第1回目にあたるもの。この授業の目的は半年間を掛けて6人1グループでデザインの提案をまとめていくもので、デザインの創作の仕方や手順といったものの学びと、最終的なデザイン案は意匠権として認められる権利で

あるという社会的な仕組みを学ぶことです。

授業の中では、まず製品デザインとはどのような仕事か、どのような製品に携わっているのか、その手順はどのようにするのか、発想のコツはどのようなものか、そして最後に意匠権の仕組みについて45分間、中身の濃い内容が話されました。

今後は生徒がグループとなって創作活動を進めていくこととなりますが、その発表会にも横井教授は参加予定で「今から結果が楽しみです」と話していました。

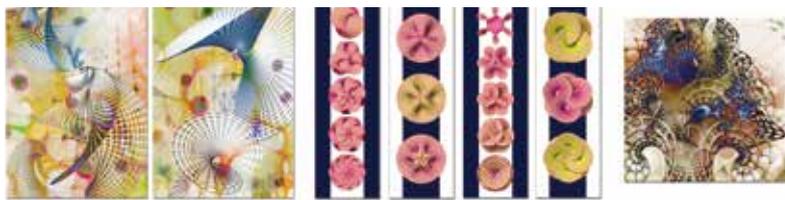
横山弥生教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

## ニューヨークで開催された 展覧会に作品を出展しました

ニューヨーク・ウォール街の近くで女性アーティストによる展覧会「トライアングル展」が開催され、横山弥生教授の作品6点が展示されました。

期間は4月3日(木)から5月30日(金)までのロングラン。

日系のNY新聞数誌からも取材を受け、掲載されました。



## 名古屋大学内のギャラリーで開催しました

5月8日(木)から5月20日(火)まで、名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」で、横山弥生教授による展覧会「THE DREAM OF GEOMETRY -CGによる幾何学をアートにする試み-」が開催されました。

会場では、2Dデジタルプリントや、3Dプリンタによって出力された作品が展示されました。



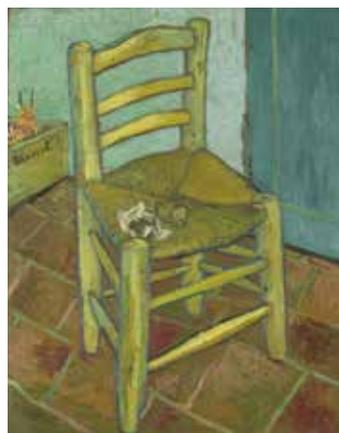
加藤慎輔技術員(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

## 参加プロジェクトが『Living Woods Magazine』に 掲載されました



クリーンな木工、里山利用、持続可能な暮らしなどをテーマに扱うイギリスの雑誌『Living Woods Magazine』に、本学の加藤慎輔技術員が参加する「ゴッホの椅子プロジェクト」が2013年11月から2014年6月までの3号にわたって紹介されました。「ゴッホの椅子プロジェクト」とは、19世紀にゴッホが描き、椅子の原点とも称される「ゴッホの椅子」を、現存する実物や資料を手がかりに復活させようとする活動です。

加藤技術員は、オリジナルの椅子の図面化、試作、治具開発を担当するなど、このプロジェクトにおいて大いに活躍されました。



大東憲二教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

## CBC『イッポウ』に出演しました



3月25日(火)、CBC『イッポウ』(毎週月～金、16:50～19:00放送)の「今日のな

ぜ?」のコーナーに大東憲二教授が出演しました。テーマはリニア中央新幹線の建設工事による環境への影響。

リニア中央新幹線の新設に伴い、名古屋駅では各交通手段への乗り換えがスムーズにできるように「スーパーターミナル」化が目指されています。一方で、建設工事に伴う騒音や振動、大気汚染など環境に及ぶ影響も懸念されています。そこで愛知県知事はJR東海に対し、環境影響評価準備書に対する意見

を提出し、追加で調査・検討すべき項目を指摘しました。この意見書の作成にも携わり、愛知県環境影響評価審査会の会長も務めている大東教授は「大規模な掘削工事で出てくる土をどう処理するのか、また地下水の問題、リニアの磁力の問題など多くの問題がある。これらの問題が環境にどう影響を及ぼすのか検証していくべきだ」とコメントしました。

## 大東教授が会長を務める県環境影響評価審査会が県に答申

リニア中央新幹線の工事に関し、JR東海が作成した環境影響評価準備書を審査する愛知県環境影響評価審査会が3月17日(月)に会合を開き、準備書に追加すべき

55項目を指摘した答申書を大村秀章愛知県知事に提出しました。

審議会は会長を務める大東教授をはじめ有識者29人で構成されています。

この内容は3月17日(月)の中日新聞にも掲載されました。

## 新堀川浄化実験が始まりました

5月29日(木)、南区の新堀川沿いで、新堀川の浄化実験がスタートしました。この実験は、大東教授と株式会社エステムとの学民協働によって始まったものです。

この実験で用いられる「高濃度酸素溶解装置プラント」は、従来の曝気方式とは異なる新しい方式で、従来の曝気方式と比較して50～

100倍の酸素溶解能力を発揮します。これによって河川底部の酸素濃度を高め、微生物の活性を促進し自然浄化作用を高めることが可能になります。

もともと新堀川は、溶存酸素量が極めて低く、夏季に悪臭が発生するなど汚濁のひどい状態でしたが、この実験によって水質の大きな改善

が期待されています。今後も半年程度、プラントにおける水質浄化実験が継続される予定となっています。

今回の実験の詳細が名古屋市議会議員(南区)の横井利明さんのブログで紹介されています。

### ■横井利明さんのブログ

平成の新堀川浄化実験(1) <http://blog.livedoor.jp/minami758/archives/2165844.html>

平成の新堀川浄化実験(2) <http://blog.livedoor.jp/minami758/archives/2165921.html>

## 「リニア中央新幹線に係る環境影響評価書に対する環境大臣意見」関係委員として助言しました

6月5日(木)、環境省は13年後に開業予定のリニア中央新幹線(東京・名古屋間)事業に関して、開発時の周辺環境への影響をまとめた評

価書を国土交通省に提出。環境大臣は環境への影響を最大限回避・低減するよう国土交通大臣に求めました。

大東憲二教授は、この評価書を取りまとめるにあたって関係委員を務めました。

佐藤壮一郎准教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

## ハンドボール日本代表男子U21ヘッドコーチに就任しました

佐藤壮一郎准教授が、ハンドボール日本代表の男子U21チームのヘッドコーチに就任。5月23日(金)から26日(月)まで、味の素ナショナル

トレーニングセンターで行われた強化合宿に参加しました。

本学男子ハンドボール部監督の佐藤准教授

は、過去にも日本男子代表チームのコーチや男子U23チームのヘッドコーチを務めています。

## 光田恵教授・岩橋尊嗣教授(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻) 『にじいろ生活』にインタビュー記事が掲載されました

名古屋リビング新聞社が発行しているフリーペーパー『シニア情報マガジン にじいろ生活』第7号(4/21発行)に、光田恵教授と岩橋尊嗣教授のインタビュー記事が掲載されました。

今回の特集は「認知症や寝たきりにならないために転ばぬ先の健・食・住」。光田教授と岩橋教授は健・食・住の中で、住まい編「自然の香りで心もカラダもリラックス」で感覚的消臭法について話しています。

感覚的消臭法とは消臭法の一つで、においを消すのではなく悪臭の元となる成分に香りを付加する方法。岩橋教授は「日本は無臭嗜好ですが、においを落とすには限界がある。私たちはにおいに香りを加えて“デザイン

していく”ことが当たり前になる時代を目指しています」と話しました。また、光田教授は“香育”を普及させていくことも急務だと指摘し、「“嗅ぐ”という行為ができない子どもが増えている。人間の本能を鍛えるためにもにおいのものの特性を知ることが大切で、香りによって脳が活性化したり心が豊かになります」と話しました。最後に、「施設においても香りと共存させると不快さが軽減します。それぞれの場所でどのような行為をするかを考



えたうえで、そこに合う香りをデザインしてください」と訴えかけました。

## 水野義雄教授(教養部 保健体育教室)・千田伸子非常勤講師(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻) 東海市から感謝状を授与されました

水野義雄教授(教養部 保健体育教室)と千田伸子非常勤講師(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)が、5月18日(日)に開催された「東海市制45周年記念式典」で地方自治の進展に貢献したことにより、鈴木淳雄東海市長から感謝状を授与されました。

水野教授は平成14年から8年間東海市教育委員を務め、この間3回教育委員長を歴任されました。千田非常勤講師は平成17年から8年間東海市教育委員を務め、この間2回教育委員長を歴任されました。

両氏ともに、「小中学校の教育改革」に尽力され、水野教授は本学のFD活動を基盤とし

た教育改革を、千田非常勤講師はコミュニケーションを重要視した授業構築を展開され、「教師が変われば子どもも変わる」をスローガンとした教育改革を推進されました。その結果を東海市教育実践総合発表会として全国向けに展開し、東海市の義務教育発展に寄与されました。この教育実践研究会には、全国から教職員が参加され、活発な意見交換とともに東海市の教育の充実度が明らかになり、全国の教職員に大きな影響を与えました。また、東海市の教育環境にも積極的な意見提示を行い、「学びやすい環境づくり」にも貢献されました。

これらの功績が認められ、感謝状の授与となりました。これらの活動は、両氏の講義にも反映されています。



▲水野教授(左)、千田非常勤講師(右)

## 水野義雄教授(教養部 保健体育教室) 知多北地区スポーツ推進委員前期研修会で講演しました

6月1日(日)、東海市立商工センターで「知多北地区スポーツ推進委員前期研修会」が開催され、水野義雄教授(教養部 保健体育教室)が「年齢に応じた指導方法」と題して講演を行いました。研修会には東海市・知多市・大府市から幅広い年齢を指導対象としたスポーツ推進委員のみなさん85名が参加されました。

当日は約2時間にわたり、「幼児から高齢者までの発育・発達」「どのような運動がそれぞ

れの年齢で適切か」「指導環境の整備」「指導対象者を見据えた指導方法」を中心に講演が行われました。講演後の質疑応答では、幅広い年齢層に対する認識が向上したとの講評もいただき、参加者のみなさんから新たな指導方法を再構築し、スポーツの推進に寄与していきたいなどのご意見をいただきました。



加藤和雄教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

## 中部インテリアプランナー協会 定期総会で講演しました

6月21日(土)、椋山女学園大学にて「中部インテリアプランナー協会 第19回通常定期総会」が開催され、加藤和雄教授が講演しました。

加藤教授は記念フォーラム『インテリアプランナーの目指すべき視点』—家具・インテ

リア・建築—の第1部を担当し、「インテリアデザインの背景、その要素」インテリアプランナー=f(x)と題して講演しました。

講演には建築・インテリアを学ぶ学生らが多く参加しました。



杉本幸雄教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

## PTA名古屋にインタビュー記事が 掲載されました

名古屋市内の小中学校へ配布されている新聞『PTA名古屋』(6月20日(金)号/15万部発行)に、杉本幸雄教授のインタビュー記事が掲載されました。

杉本教授は、ドキュメンタリー作家、映画監督としても活躍しており、杉本教授が監督を務めたドキュメンタリー映画「四つの空いのちにありがとう」をテーマにインタビューは進められました。この映画を撮影するきつ

けや撮影時のエピソード、心掛けていたこと、今の学生たちや子育て中の保護者の方へ向けたメッセージなどが掲載されています。

杉本教授は学生たちに向けて「大切なのは何を伝えるのか、何を伝えたいのか。映画は自分の想いを伝えるための手段であり、世の中にこれを伝えたいと思う強い気持ちをもつことが重要だ」と話しています。



▲PTA名古屋(6月20日)

大東憲二教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

## 「地下水調査解析の初歩」で特別講演を行いました

6月13日(金)に名古屋大学博物館 講義室にて、(一社)日本応用地質学会中部支部主催の応用地質学講座「地下水調査解析の初歩」が開催され、大東教授は特別講演「地下構造物建設による地下水環境への影響評

価」を担当しました。

今回の講座は、若手地質・土質技術者を対象としており、地下水調査に携わっている初級者のための地下水解析の基礎と解析実習をテーマに開催されました。25人の参加者

からは「基礎的な内容から実務に役立つ解析方法を学べ参考になった」等のコメントが寄せられました。

渡部裕子講師(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

## 「第11回 境内アート小布施×苗市」で 作品を出展しました

4月19日(土)・20日(日)に長野県小布施町の玄照寺で開催されたアートイベント「第11回 境内アート小布施×苗市」にて渡部裕子講師が作品を出展しました。

作品のテーマは「地水火風」で、作品の中に輪廻転生を感じさせる色づかいの布を取り入れ、立体作品とともに空間展示したものを。

「境内アート小布施×苗市」は、玄照寺で50年近い歴史を持つ苗市に併せて開かれる、「芸術」「文化」「交流」と「楽しさ」をコンセプトとした一大アートイベント。毎年作品を展示している渡部講師は、地元メディアの取材も受けたようです。





## 第0回 異分野交流会を開きました

4月7日(月)、本学教職員や学生を対象とした「第0回 大同大学 異分野交流会」が開かれ、およそ30人が参加しました。この交流会は、教員がそれぞれの専門分野と自身の研究・創作活動について、異なる分野の人たちと相互に解説・発表し合うことで、学科や分野を超えた横のつながりを作ることを目的として開かれました。

今回の交流会では、町屋修太郎准教授(工学部 機械工学科)と斉田浩見准教授(教養部 物理学教室)が講演。町屋准教授は「超伝導と

原子力」と題して発表し、原子力について歴史や豆知識などを交えながらお話が進みました。斉田准教授のテーマは「ブラックホールと宇宙」。いまだ存在する証拠が見つかっていないブラックホールについて、分かりやすく解説がなされました。

今後も年に数回開催し、教職員・学生間の交流を行っていく予定です。



## 韓山師範学院短期留学報告会を開催しました

4月29日(火)16:30~18:00、A棟14階交流室で韓山師範学院短期留学報告会を開催しました。

この報告会は、2014年3月6日(木)~19日(水)の2週間にかけて実施された、韓山師範学院への短期留学についての報告会です。短期留学に参加した学生20人全員が、各自3分間の持ち時間で3枚の写真を使って今回の短期留学で印象に残ったこと「ベスト3」を発表する

という形式で報告を行いました。

韓山師範学院は、広東省 潮州市にある総合大学で、本学とは2012年4月に学術交流協定を結んでいます。2年前には本学のロボット研究部の学生が招待され訪問したほか、昨年には本学へ韓山師範学院の学生15人が短期留学生として来学するなど、友好的で活発な交流が続いています。今回の短期留学が韓山師範学院への記念すべき第1期短期留学生となりました。

現地では講義をはじめ、工場や企業の見学、そして日本語学科の学生ボランティアとの交流を通じて、中国の文化に直接に接することができました。これらの経験を通じて、参加した学生たちはいっそう成長してくれたことと思います。



▲短期留学参加者



## 本学で日中社会学会第26回大会が開催されました

6月7日(土)、8日(日)、本学で日中社会学会第26回大会が開催されました。日中社会学会は、日中両国の社会学界の交流を図り、両国の社会学の発展に寄与することを目的としています。学会では大嶋和彦副学長(工学部 総合

機械工学科 ロボティクス専攻教授)が開会式の開催校挨拶を務めるとともに、「理工系から見た中国—交流の現場から—」と題して記念講演を行ったほか、日中社会学会理事である松木孝文准教授(教養部 人文社会教室)が司会

を務めました。また本学の学術交流協定締結校である中国・韓山師範学院の呉雲影先生もシンポジウムのパネリストを務められました。



## 大同大学創立50周年記念事業 同窓会から大型バスが寄贈されました

同窓会から寄贈された大型バスのお披露目を3月24日(月)に開き、奥村博司理事長、澤岡昭学長始め評議委員の皆さまにお集まりいただきました。バスデザインを担当したのは伊藤久祥さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 2013 年度卒業生)。大学創立 50 周年記念事業の一環として本学学生に募集した「バスデザインコンテスト」で最優秀賞に輝きました。

お披露目に参加した伊藤さん、「自分のデザインがこのようなカタチとなって本当に感動しています!」

笑顔で話した彼の表情は充実感がみなぎっていました。



▲澤岡学長と下里同窓会長



▲澤岡学長に紹介される伊藤さん

## 大同大学創立50周年記念公開講座「宇宙塾」 Mission1、Mission2、Mission3を開催

さまざまな可能性を秘めた宇宙を身近に感じ、すばらしい未来に思いをはせる、全 10 回のシリーズ講座「宇宙塾」。

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 技術参与として国際宇宙ステーションの応用利用計画を推進し、現在も研究総括を務める澤岡昭学長が塾長を務め、毎回宇宙の魅力についてお話しています。

Mission1「イプシロンロケット」は4月9日(水)に開催され、およそ 50 人の参加者が澤岡学長の話に耳を傾けました。澤岡学長は自身の経歴について紹介したあと、糸川英夫先生によって始まった日本の固体燃料ロケット開発の歴史、2013 年に打ち上げられた新型固体燃料イプシロンロケットの打ち上げ時のエピソードなどについて話しました。

参加者の方からは「ロマンがひしひしと伝わってきて、聞き応えがあった」「糸川先生の思いが今に続いていると知り、感銘を受けました。次回も楽しみにしています」などの感想をいただきました。

Mission2「日本人宇宙飛行士」は、5月21日(水)に開催。Mission2 もおよそ 50 人の塾生が集まりました。

講座では、先日国際宇宙ステーション船長の任務を終えて帰還した若田光一宇宙飛行士の話から始まり、スペースシャトルに乗る前の訓練段階で澤岡学長が毎週勉強会の講師を担当していたという毛利衛さん、向井千秋さんらの当時のエピソードが紹介されました。

塾生からは、「宇宙飛行士の特徴・素質といったものはあるのか」「現在のスペースシャトルの安全性はどれくらいのものなのか」といった質問があり、さらに知識を深めることができたようです。

そして Mission3「スペースシャトル」は6月11日(水)に開催されました。1981 年のスペースシャトルの初号機から 2011 年 7 月の最後の飛行を終えたアトランティス号までの歴史やスペースシャトルの構造、その時々澤岡学長のスペースシャトルへの思いなどが話されました。また、1986 年、2003 年に起きた爆発事故、空中分解事故についても触れ、澤岡学長が事故後進めた危機管理の研究にも話が及びました。最後に塾生から活発な質問がなされた様子から、まだまだ聞きたい話がたくさんあったテーマのようです。

今後も来年 2 月まで、毎月宇宙の魅力についてお話していきます。



生活情報新聞『リビング新聞(5月17日号)』や毎日新聞(6月30日)で紹介されました!

### 人事

#### ●昇任【大学】

<事務職員>(H26.6.1)

錦織 整 大学事務部 教務室長

#### ●異動【法人本部】

<事務職員>(H26.6.1)

肥田 聡 総務部 人事室長